

全国小学校英語教育実践研究会 令和2年度 「わたしの英語教育実践」	5年 外国語（9月） Here We Go! Unit 3 What do you have on Monday? 5h/7h扱
②教科書を活用した授業づくりの工夫（高学年）	東京都立川市立第五小学校外国語専科 坂井友里

英語を活用しながら、児童の視野を海外へと向けていく授業の工夫

児童の視野を海外へと向けていくことで、外国語を学びたいという意欲をより高めることができると考え、本実践を行った。前時までの学習において、本単元の新出表現を身近な人と繰り返し活用し、相手への理解を深めながら定着を図ってきた。そのうえで本時の学習を行った。

<本時の学習活動>

1. どの国の時間割か予想する。

- ・フランスの時間割を提示した。日本と違う点に気付かせ、学習課題を設定した。

学習課題「海外の小学校はどんな時間割なのだろう」

2. 海外の学校の時間割を知るために必要な表現を確認する。

- ・ブランクありのアメリカの時間割を提示し、ALTへの質問の仕方を確認した。
- ・ペアでブランクが逆になっている時間割（オーストラリアとタイ）を配布し、確認した表現を用いて時間割を完成させた。

3. 海外の小学生が時間割を紹介する映像を見る。

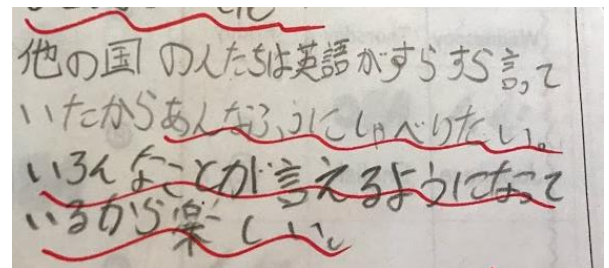
- ・海外の小学生（パラグアイ、中国）が自国の時間割と好きな教科を紹介する映像を見た。

4. フィリピンの小学生とオンラインで会話をする。

フィリピンの小学生とオンラインで会話をした。フィリピンの小学生には、質問に答えるだけでなく「How about you?」と聞き返して欲しいことをお願いしていたため、児童も自分のことを相手に伝えることができた。



身近な人とのやり取りで終わるだけでなく、本単元で学習する表現を活用して海外の小学生と交流した。それにより、児童の「英語をもっと話せるようになりたい」という意欲を高めることにつながった。



児童の視野が国際社会へ向くように、授業中に世界のことについて取り上げるだけでなく、教室掲示でも取り上げている。

英語を話すことへの抵抗を減らすために、「挑戦し、うまくいかなくても、めげないことが大切」と伝え続けている。



指導助言・アドバイスコーナー

文部科学省では、GIGAスクール構想を立ち上げ、令和元年より5年度までに、学校の児童生徒「1人1台端末」と高速大容量の通信ネットワークの整備を一体的に行う計画を進めてきましたが、今年度「1人1台端末」整備の前倒しや、家庭でも繋がる通信環境の整備など、災害や感染症の発生等による学校の臨時休業等の緊急時においても、ICTの活用により全ての児童の学びを保証できる環境の整備を行うこととしています。坂井教諭は、ネットワークやデジタル教材等をうまく活用し、海外の学校の時間割の情報を得たり、海外の小学生の時間割や好きな科目を紹介する映像を視聴させたりして、児童の興味・関心を高め、時間割に関するやり取りや発表する力を付けています。そして、最後には、その力を活用しながら、海外の同年代の子供と時間割について交流する活動を設定し、児童のコミュニケーションを図りたいという思いを高めています。

（文部科学省 視学官 直山 木綿子）